

第3章 計画の基本的な考え方

個人の食生活は、その自由な判断と選択に委ねられるべきものであり、食育の推進が十分な成果を挙げるためには、県民が自らの意志で健全な食生活の実践に取り組むことが重要です。

このため、食育は、県民が主役となった幅広い運動として推進していくこととし、関係者の自発的意志を尊重しつつ、地域の特性に配慮し、食に関する団体や企業、行政等の多様な主体が参加し、その連携を図りつつ、地域を挙げて、着実に推進していくことを目指します。

その具体的な内容として、本計画においては以下の3点に重点を置いて、取り組みます。

重点項目1 家庭、保育所、学校、地域等における食育の推進

食生活の良し悪しが人に及ぼす影響は大きく、例えば、朝食をきちんととる児童生徒の方の正答率や体力テストの点数が高い傾向にあるとの調査結果(*)が報告されています。健全な食生活は、健康で豊かな人間性の基礎をなすものですが、大人になってから食習慣を改めることは困難といわれており、また、次の世代につなげていくためにも、子どもの頃からの食育が重要です。

このため、家庭での健全な食習慣や学校での農林漁業体験をはじめ様々な機会や場所において、適切な食生活の実践や食に関する体験活動の促進、知識の啓発等に積極的に取り組み、子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身に付けることができるように、家庭、保育所、学校及び地域などにおいて食育を推進します。

* 第2章1-(3)「朝食の摂取と学力テスト(石川県) 体力テスト(全国)」参照

重点項目 2

石川の伝統的な食文化の継承と体験型食育の推進

食は、地域における伝統や気候風土と深く結びついており、地域の個性ともいべき多彩な食文化や食生活を生み出し、本県の文化の発展にも寄与してきました。このように食をめぐる問題は、健全な食生活の実践という域にとどまらず、人々の精神的な豊かさや生き生きとした暮らしと密接な関係を有しており、先人によって培われてきた多様な食文化を後世に伝えつつ、時代に応じた優れた食文化を育てていくことが重要です。

また、毎日の食生活が食に関わる人々の様々な知恵や活動に支えられていることについて、県民が日々の生活の中で学び実感することは困難である場合が多く、食に関する様々な情報の氾濫や料理をする機会の減少等とあいまって、健全な食生活の実現に欠かせない食に関する知識や判断力が低下しています。

よって、本計画の推進にあたっては、本県の伝統ある優れた食文化を継承するとともに、郷土料理や食材等を題材とした体験活動を中心とした食育を推進します。

重点項目 3

県民を挙げた食育推進運動の展開

個人の食生活は、その自由な判断と選択に委ねられるべきものであり、食育は、県民が自らの意志で取り組むことが重要です。このため、食育推進運動の展開に当たっては、県民一人一人が食育の意義や必要性等を理解し、これに共感するとともに、行政のみならず関係者が、食をめぐる問題意識を共有しつつ、家庭、学校、保育所、地域等社会の様々な分野において、積極的に食育の推進がなされることが重要です。

このような観点から、県民や団体等の自発的な意志を尊重するとともに、多様な主体の参加と連携・協力を立脚した県民運動として食育を推進するための施策を展開します。